

第2回 本格駆除エリア経過観察地点の継続調査

美しい手賀沼を愛する市民の連合会

日時：2021年4月5日（月）10:00～11:30

※4月3日事前調査 古川（NPO法人アルバトロスヨットクラブ）

集合：9:45 親水広場 第2駐車場

場所：手賀沼大堀川河口部

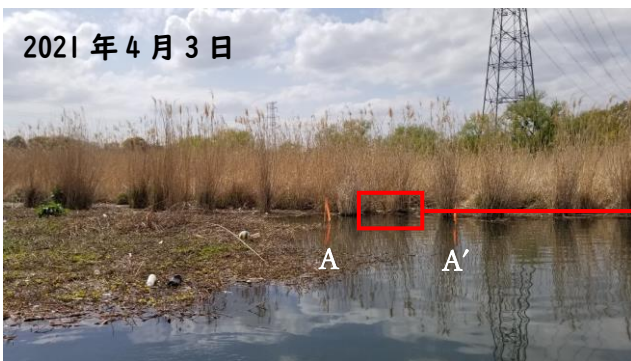
船の運航：みずすまし号 古川、綾野、杉山（NPO法人アルバトロスヨットクラブ）

参加：滋賀県琵琶湖環境部 中井克樹さん、千葉県立中央博物館 林紀男さん

柏土木事務所 建設課 永鷲さん・管理課 岡さん、美手連 6名

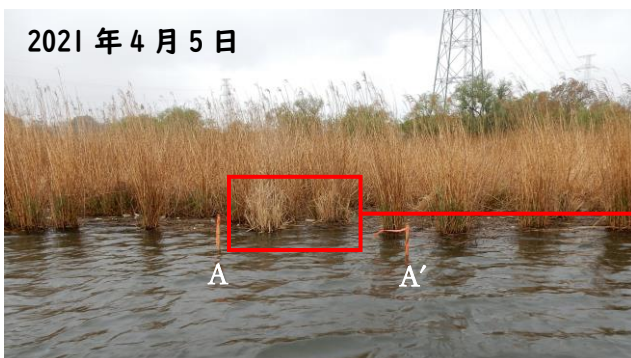
（1）継続観察地点状況 ※ナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）、オオバナミズキンバイ（以下、オオバナ）

A⇔A'



A地点南側にナガエ・オオバナ断片（以下、断片）が大量に漂着

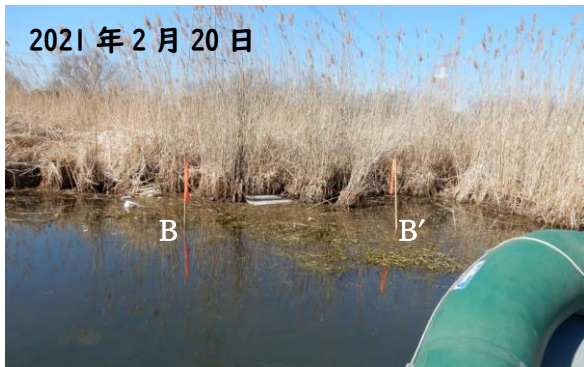
ヨシの間に断片が入り込んでいる。



A地点南側にあった大量の断片が消えている。 ヨシの間に断片やゴミは変わらず多数入り込んでいる。

B⇔B'

2021 年 2 月 20 日

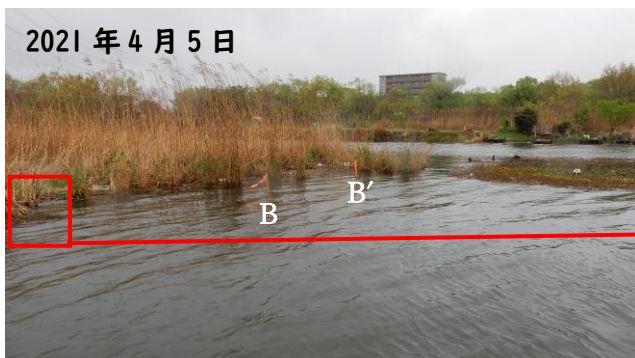


2021 年 4 月 3 日



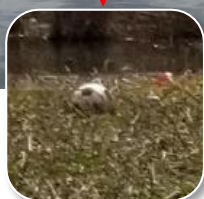
オオバナが発芽している

2021 年 4 月 5 日

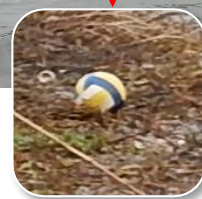
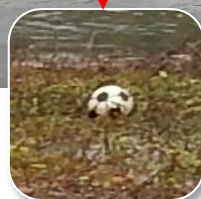


ナガエが多数芽吹いている。

2021 年 4 月 3 日



2021 年 4 月 5 日



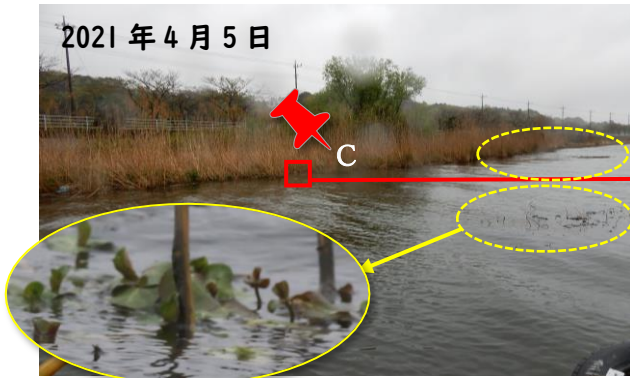
4 月 3 日に A 地点南側にあった大量の断片が、4 月 5 日には B 地点北側（大堀川右岸河口部）に漂着していた。2 個のサッカーボールがそのまま移動している。大堀川左岸河口部にも同様に大量の断片が漂着していた。

C

2021 年 2 月 20 日



2021 年 4 月 5 日

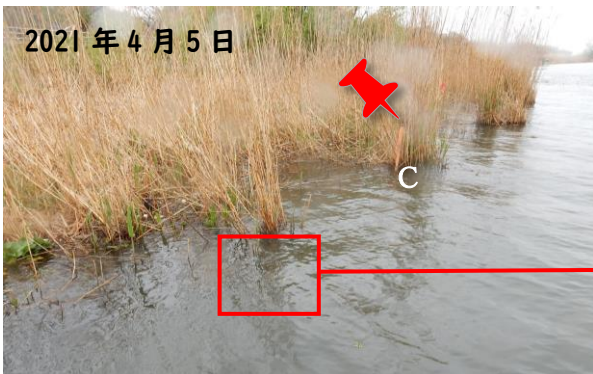


発芽したナガエ・オオバナが漂流



ヨシの間からオオバナの発芽

2021 年 4 月 5 日



オオバナが沈水植物のような状態で発芽している。3月下旬から水位が上昇したためか。

(2) 調査結果

- 調査日が悪天候が予想されたため、船長の NPO 法人アルバトロスヨットクラブの古川さんが、お天気の良かった前々日の 3 日に調査地点を写真に収めてくださっていた。お陰で、3 日に漂着していた A 地点南側のナガエ・オオバナ断片群落が大堀川河口部兩岸に移動したことを確認できた。河口を塞ぐように移動していたところ、大堀川からの流れによって、兩岸に分離され漂着していたのではないかと想像する。
- 芽吹き始めたナガエ・オオバナの断片がほぼ全域に漂着していた。また、根戸新田地先の C 地点では取り残しから発芽しているオオバナを多数発見した。

(3) 考察

- 今回の調査で、第二機場前、花火台周辺に繁茂していた群落がかなり縮小しているのを確認している。調査地点に大量に漂着している群落の供給源となっている可能性が高い。頻繁に漂着しているのではないかと。（以下、写真参照）

- ・ 中井さんによると、機械駆除後、根こそぎ取っても必ず再繁茂する。100%駆除は不可能。8割駆除していけばよい。それ以上に無理な努力をしない。残った2割が芽を出し、取り残した箇所を教えてくださいるのでそれを駆除する。最低でも3、4回繰り返す必要がある。
- ・ 今年度の仕様書では8月31日までに駆除を完了することとなっている。その後、断片漂着や取り残しからの再繁茂にはどのように対応するのか。再繁茂防止体制の構築が必要不可欠である。
- ・ 今回の駆除エリアをナガエ・オオバナ断片流入防止ネットを取り囲み、囲んだ内側でヨシの中から再生したものを丁寧に駆除し根治することを検討していたが、ネット設置が隣接区域において刈り取り船による駆除作業や運搬船の航行の障害になる可能性が予想される。また、機械駆除後に放置していると取り残しから確実に再生し、大繁茂するであろう。そこで駆除する際にネットがかなりの妨げとなる可能性がある。
- ・ 9月以降、巡回監視・駆除を定期的実施し、一部区間でネットを設置して効果を検証したらどうか。

■北千葉第二機場前の状況

※第二機場放流口まで開放面が続いている。



■花火台周辺の状況



■手賀沼を漂流



航行時に漂流している群落を多数目撃している。
右写真は太堀川河口部左岸に漂着した群落。